


分野	22	高齢福祉・障がい福祉	<b>通番 38</b>
施策	222	介護等への支援の充実	
<b>5年後の目標</b>		認知症や介護等への理解が進み、介護が必要な人や家族が住み慣れた地域で最期まで安心して生活できている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	<b>認知症施策総合推進事業</b>		会計	款	項	目	21,981,703	高齢介護課
			介護	3	3	2		
事業の概要								
認知症対応型カフェ事業等の啓発や活動の促進を図りながら、認知症の早期発見から症状に応じた適切な対応まで可能となる体制の構築に努めます。また、市民の認知症への理解を深めるための普及啓発を関係機関が行うことで、地域とのネットワークを構築しながら、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整備します。								


令和2年度の取組							
D (取組)	指標(～H29年度)	認知症サポーター養成講座受講者数(累計)				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	3,263 (平成26年度)	目標	4,800	5,600			
		実績	5,128	5,798			
	指標(H30年度～)	おでかけあんしん見守り事業協力者数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	1,227 (平成28年度)	目標			2,000	2,200	2,400
		実績			17,044	21,959	26,932
	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症初期集中支援チームとして7ケースを支援しました。</li> <li>認知症対応型カフェについては計11か所開設していますが、コロナ禍のため例年通りに運営できていません。</li> <li>模擬訓練を通して、隣接する京都市西京区の事業所に対して連携と啓発に取り組みました。</li> <li>認知症サポーター養成講座では、高齢者施設の利用者との交流の事前学習の一環として京都ジョブパークとの取組や小学生への取組を含め全10回開催し、認知症の理解推進に努めました。</li> </ul>					<b>模擬訓練の様子</b> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和2年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド		対応頁
		認知症サポーター養成受講者数	地域で見守る体制を構築する為、若年世代等にも受講者を増やす必要があります。		198
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>おでかけあんしん見守り隊として8事業所が新規登録、メールサポーターは33名の新規登録がありました。</li> <li>認知症サポーター養成講座を通じ、令和2年度も若年層への認知症の啓発ができました。</li> </ul>	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存のGPS機器が生産終了し、新しい機器に変更になったため、利用者が新しい機器の取扱いに苦慮しているという報告があります。</li> <li>新型コロナウイルス拡大の影響により、講座の開催数及び受講者数が前年度と比較して減少しました。</li> </ul>			

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1: 計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>感染予防の視点を踏まえ、オンラインの活用も視野に入れて日程や会場を設定し、講座を開催していきます。</li> <li>利用者に対し、使用機器の役割や機能について、引き続き丁寧に説明していきます。</li> <li>事業協力者が多ければ多いほど見守り機能が高まるため、これまでの本事業の実績、成果を伝えていくことで、引き続き新たな事業協力者の参入を促していきます。</li> </ul> </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染予防の視点を踏まえ、オンラインの活用も視野に入れて日程や会場を設定し、講座を開催していきます。</li> <li>利用者に対し、使用機器の役割や機能について、引き続き丁寧に説明していきます。</li> <li>事業協力者が多ければ多いほど見守り機能が高まるため、これまでの本事業の実績、成果を伝えていくことで、引き続き新たな事業協力者の参入を促していきます。</li> </ul>
方向性	対応策等				
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染予防の視点を踏まえ、オンラインの活用も視野に入れて日程や会場を設定し、講座を開催していきます。</li> <li>利用者に対し、使用機器の役割や機能について、引き続き丁寧に説明していきます。</li> <li>事業協力者が多ければ多いほど見守り機能が高まるため、これまでの本事業の実績、成果を伝えていくことで、引き続き新たな事業協力者の参入を促していきます。</li> </ul>				

分野	22	高齢福祉・障がい福祉	<b>通番 39</b>
施策	222	介護等への支援の充実	
<b>5年後の目標</b>		認知症や介護等への理解が進み、介護が必要な人や家族が住み慣れた地域で最期まで安心して生活できている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	<b>民間老人福祉施設等 整備・運営支援事業</b>		会計	款	項	目	68,405,315	高齢介護課
			一般	3	1	2		
事業の概要								
一人暮らしや高齢者世帯の増加などにより、安心して住み慣れた地域で生活が継続できる環境整備が求められており、また家族の介護を理由とした介護離職が課題となっていることから、特別養護老人ホーム等(認知症グループホーム及び有料老人ホームを含む)の施設整備を計画的に促進します。また、事業所が安定かつ適切な運営を行えるよう支援します。								

令和2年度の取組							
D (取組)	指標(～H29年度)	特別養護老人ホーム数				単位	施設
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	5(平成26年度)	目標	6	7	/	/	/
		実績	6	7	/	/	/
指標(H30年度～)	特別養護老人ホーム等の定員数				単位	人	
現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
559(平成28年度)	目標	/	/	599	599	691	
	実績	/	/	630	679	679	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・6事業所に民間老人ホーム等施設振興補助金を交付し、事業所が安定かつ適切に運営できるよう支援を行いました。</li> <li>・定員29名の地域密着型特別養護老人ホームの整備が予定されているため、事業者に対する施設整備補助金の交付を決定しました。</li> </ul>					特別養護老人ホームの様子 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和2年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	・第7期介護保険事業計画で令和2年度整備を予定していた地域密着型特別養護老人ホーム1施設の整備がコロナ禍の影響を受け令和3年度に延期されました。
課題等	・施設入所待機者は年々減少していますが、依然として相当数存在するため、他の住居系施設を含め一定の施設整備が必要です。(令和2年度特養待機者111人、京都府調べ。)一方、施設整備に当たっては、長期的かつ広域的な状況を勘案することが必要となります。			—

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当	対応策等 ・有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅やグループホームといった高齢者の住まいの整備状況なども考慮しつつ、施設整備を進めていきます。